

シンポジウム

「陶磁器質タイル張り工事の現状と今後の動向 2017」

鉄筋コンクリート造建築物の外壁に陶磁器質タイルを張る工法は、日本独自の技術であり、「文化」といっても過言ではない。これまで、このタイルの文化の継承に多大な努力を費やしてきた。2012年にJASS19を改定し、有機系接着剤によるタイル後張り工法やプロセス検査などについて新たに記述した。

今回のシンポジウムの主な内容は、改定後のセメントモルタル張りとは有機系接着剤張りの現状と課題、最近施工実績が増加している大型床タイル張りの現状と課題、今後の動向として建築基準整備促進事業による定期調査方法の合理化の検討である。

次回のJASS19の改定に向け、本シンポジウムは陶磁器質タイル工事の現状と今後の動向について活動成果を公開する。さらに、陶磁器質タイルに関心のある方々、施工・設計に携わる実務者の方々の有意義な情報共有の場とする。

主催：材料施工委員会 内外装工事運営委員会 陶磁器質タイル工事検討小委員会

後援（予定）：日本建築仕上学会、全国タイル業協会、全国タイル工業組合、日本タイル煉瓦工事工業会、日本左官業組合連合会、日本接着剤工業会、ALC協会、プレコンシステム協会

日時：2017年11月29日（水）13：00～16：30

会場：建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）

<プログラム（予定）>

開催挨拶／主旨説明	河辺伸二（名古屋工業大学／小委員会主査）13：00-13：10
(1) 熊本地震外壁タイル調査報告	河辺伸二（前掲）13：10-13：30
(2) セメントモルタル張りの現状と課題	竹中賢治（日本化成）13：30-13：50
(3) 有機系接着剤張りの現状と課題	高橋 拓（竹中工務店）13：50-14：20
(休憩 15分)	
(4) 大型床タイル張りの現状と課題	名知博司（清水建設）14：35-15：45 栗秋裕次（LIXIL） 畠山朋久（日本陶業）
(5) 最近の動向 平成 27・28 年度 建築基準整備促進事業 T1. 湿式外壁等の定期調査方法の合理化の検討	本橋健司（芝浦工業大学）15：45-16：25 河辺伸二（前掲）
閉会挨拶	小川晴果（大林組）16：25-16：30

司会：中尾秀樹（全国タイル業協会）

記録：横井弘喜（全国タイル業協会）

参加費：会員 2,000 円、後援団体会員 2,500 円、会員外 3,000 円、学生 1,000 円（資料代含む／当日会場払い）

定員：180 名（申込み先着順）

申込方法：Web 申し込み <http://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=602927> よりお申し込みください。

問合せ：日本建築学会事務局 事業グループ 榎本

TEL：03-3456-2051 E-mail：enomoto@aij.or.jp

※シンポジウムの動画配信（有料）も行っております（申込ページ：<http://www.aij.or.jp/event/list.html?categoryId=2>）